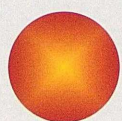
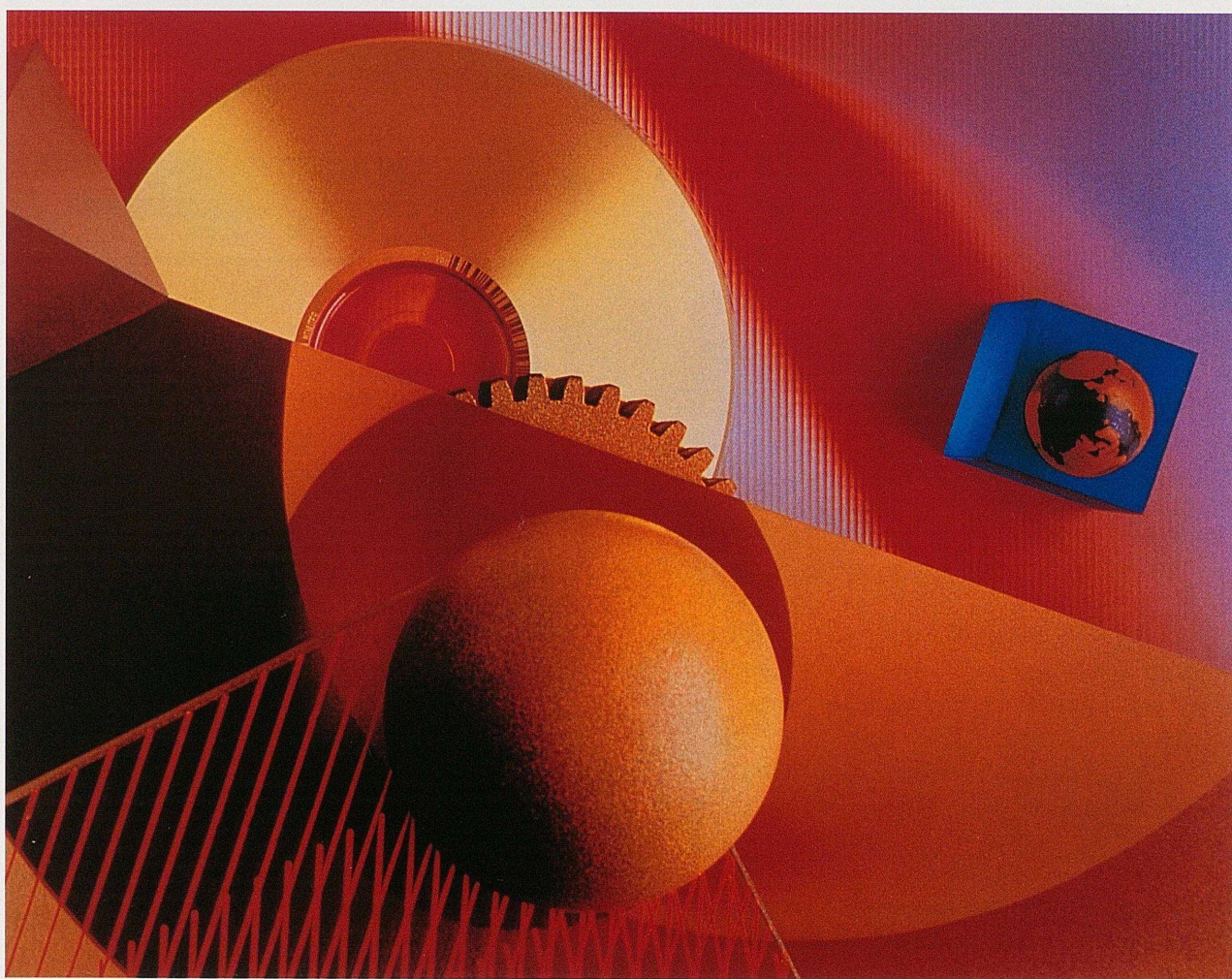
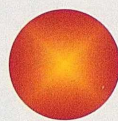


これからの大学入試



大学入試センター試験を活用して



入試に個性と特色を

各大学それぞれに特色ある入試の実現を。大学入試センターは、その期待にこたえます。

大学入試改善の方向

大学入学者の選抜は、①大学教育を受けるにふさわしい能力・適性などの多面的な判定、②公正かつ妥当な方法、③入試のために高等学校の教育を乱すことがないような配慮、が基本的に重要だとされています。また、高校生段階にある受験生の幅広い人間形成にも十分留意して、それぞれの個性や能力、適性を大切にしたい画一的でない大学入試が、今まさに求められています。

大学入試センター試験を活用して

これまでも入試制度そのものや各大学の入試方法について、さまざまな改革・改善が積み重ねられてきました。平成2年度からスタートした「大学入試センター試験」は、これらの実績の上に立って実施されている入試制度です。この試験は、各大学の創意工夫により、さまざまな形で活用することができます。この試験を活用した積極的な入試の改善が期待されています。

国公立大学の枠を超えて

各大学の入学者の選抜は、それぞれの学風、建学の精神に沿って、より個性的で特色のあるものとして実施されることが重要です。大学入試センター試験はこのような期待にこたえます。この試験の趣旨や内容、実施結果などを、より多くの関係者の方に理解していただき、利用大学の輪が大きく広がっていくことが望まれます。大学入試の改善は、国公立すべての大学において着実に進められていくことが、何よりも大切と考えます。

各大学の特色ある入試をお手伝い



大学入試センター試験は、利用大学ごとの自由な活用が基本。

大学入学者の選抜の具体的なあり方は、各大学それぞれの自主的な検討に待つべきもの。大学入試センター試験は、このことを前提とし、各大学が独自の判断と創意工夫により自由に活用できるように考えられた試験です。受験生ひとりひとりの能力や適性などが多面的に判定できるよう、この試験の成績を役立てていただくのが目的です。

教科・科目の利用の仕方は各大学の考え次第。

大学入試センター試験の6教科31科目のうち、特定教科・科目のみの利用も、もちろん可能です。また、調査書や面接、小論文、実技検査などと適切に組み合わせることで、各大学のカラーを鮮明に打ち出し、いわゆる輪切りや序列化に歯止めをかけることも期待されています。

利用法いろいろ、メリット多彩

平成9年度に実施された第8回の大学入試センター試験においては、各国公立大学が、それぞれ創意工夫をしてこの試験を活用。その成果については、さまざまな反響が寄せられています。

各大学での利用方法の一例

- 基礎的な学力を幅広く評価するため、出題教科・科目を総合的に利用。
- 一般選抜の定員の一部について、大学入試センター試験の特定の教科・科目を利用。
- 利用する教科・科目に幅を持たせ、受験者が得意なものを選択させて利用。
- 大学が独自に行う2次試験の成績評価の参考資料として利用。
- 調査書と大学入試センター試験で第1次の選抜を行い、その合格者について面接試験を実施。
- 工学部において、大学入試センター試験の数学・外国語を利用。2次試験は理科のみを実施。
- 定員の一部について、大学入試センター試験と2次試験のうち、高得点のほうを合否の判定に使用。
- 推薦入学について、国語・外国語のみを利用し、2次試験として面接を実施。

実施によって得られた成果

- 大学入試センター試験を利用した選抜については、全科目に平均的な学力を有するオールラウンド型の学生が受験するなど、従来とは異なった層の学生を開拓することができた。
- 大学入試センター試験の利用により、今まで実施が難しかった小論文や面接を導入する余裕ができ、偏差値・輪切り型からの方向転換を図ることができた。
- 受験者が全国的に広がり、受験者数も従来より増加した。
- 大学のPRに役立ち、イメージアップが図れた。
- 女子の入学者数が従来の3倍以上という高率を示した。
- 大学独自の試験のみで選抜を行うよりも、広範囲の教科・科目を利用した広い視野から受験生の適性の評価が行えるようになった。
- 同一大学・学部を受験チャンスが1回増えたことが受験生に好評であった。

大学入試センター試験の果たす役割など

大学入試センター試験は、昭和54年度から平成元年度まで実施された共通第1次学力試験に代えて、平成2年度から実施されているものです。



●難問奇問を排除した、良質な問題の確保

昭和53年度以前は、高等学校教育の程度や範囲を超えた難問奇問の出題が少なくありませんでしたが、共通第1次学力試験や大学入試センター試験の導入により、難問奇問を排除した良質な問題が確保されるようになり、現在、高等学校等の関係者からも高い評価を受けています。

●2次試験との適切な組み合わせによる大学入試の個性化・多様化

2次試験において、小論文、面接等を実施する大学や、推薦入学、帰国子女・社会人を対象とした特別選抜を実施する大学が大幅に増えつつあり、このような大学入試の個性化、多様化に大学入試センター試験は貢献しています。

●国公立大学を通じた入試改革

大学入試センター試験は、共通第1次学力試験と異なり、私立大学も利用できます。私立大学の参加は年々増えており（10年度入試では、180大学394学部）、利用した私立大学からも好評を得ています。

●アラカルト方式による大学の序列化の回避

共通第1次学力試験は、一律に5教科を課していましたが、大学入試センター試験では、利用教科・科目を各大学が自由に指定できるアラカルト方式により、いわゆる輪切り、序列化を助長しないようにしています。最近、国公立大学においても、大学入試センター試験の多様な利活用が進んでいきます。

協議・協力し、スムーズに実施

国公立の各大学が共同して試験の実施に当たります。

大学入試センター試験は、この試験を利用する国公立大学が大学入試センターと協力しながら、大学入学者選抜の一部として、共同して実施するものです。また、この試験に関し、国公立大学間でその改善や充実、及び意見の集約・調整などを行う協議組織として「大学入試センター試験協議会」が置かれており、試験実施に関する重要事項については、この協議会で慎重に協議を重ねた上で決定されます。

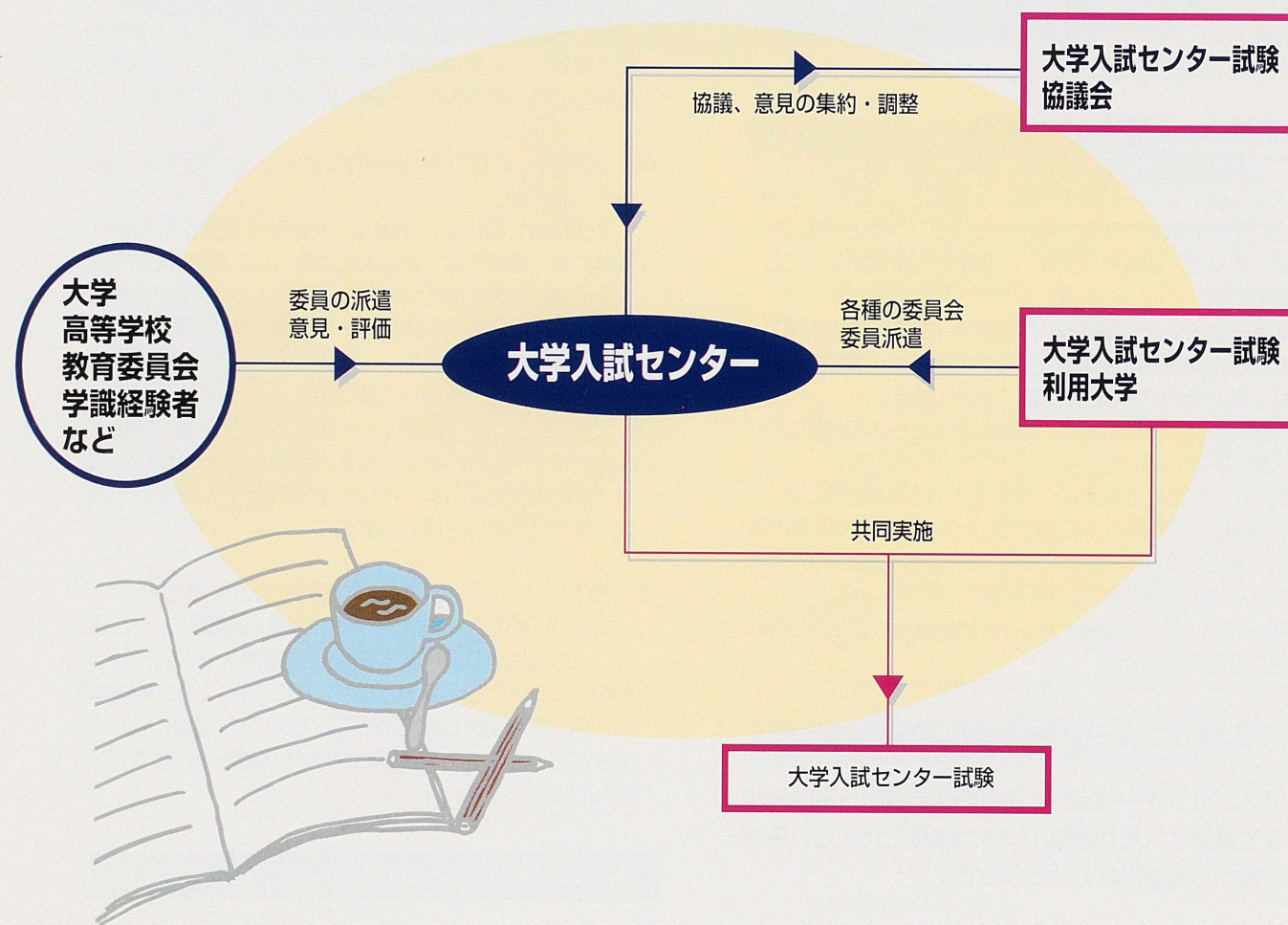
大学入試センターが試験問題の作成・答案の採点などを担当します。

大学入試センターは、主として問題の作成や印刷、答案の採点、集計など、試験の実施に当たり一括して処理することが適当な業務を担当しています。

試験問題は、国公立大学の教員によって作成され、その内容については、学識経験者、高等学校関係者からの意見・評価を受けています。

なお、大学入試センターの運営に関しては、各種委員会を通して各大学・高等学校関係者などの意見が十分に反映されるようになっています。

大学入試センター試験の運営



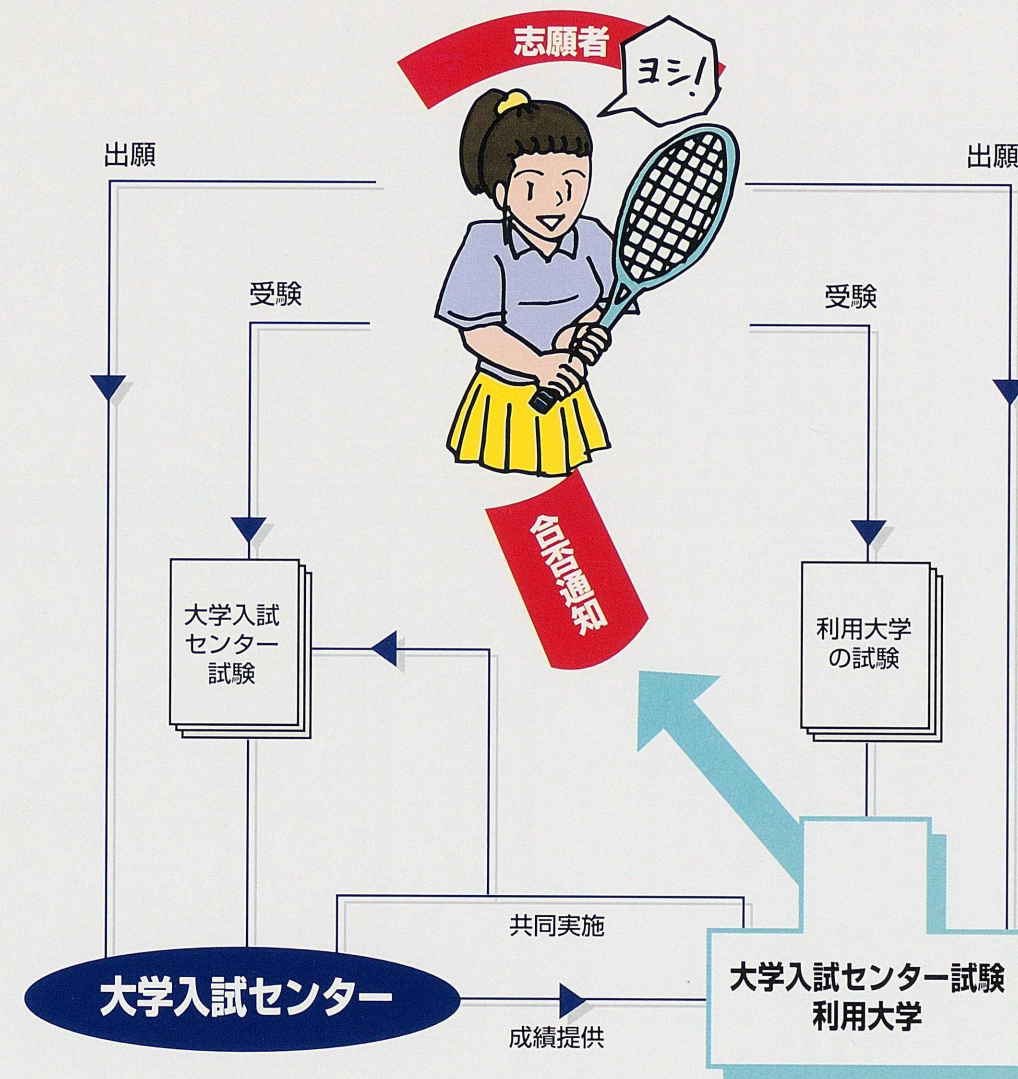
大学入試センター試験を利用した入試の仕組み

利用大学の役割

- 大学入試センター試験の利用教科・科目及び各大学の学力検査などの予告
- 試験場の設定、試験監督者などの選出
- 志願者への受験案内の配付
- 試験の実施
- 答案の整理、大学入試センターへの返送

大学入試センターの役割

- 試験問題の作成、印刷、輸送
- 受験案内、実施マニュアルなどの作成
- 出願の受付、試験場の指定、受験票の交付
- 答案の採点、集計
- 試験成績などの各大学への提供



- ◎検定料／3教科以上受験16,000円
2教科以下受験10,000円
- ◎出願方法／高校卒業見込者は在学高校を経由。
高校卒業者は直接郵送。
- ◎試験場／原則として
(1)高校卒業見込者は在学高校が所在する試験地区内の試験場。
(2)高校卒業者は居住する試験地区内の試験場。

平成10年度大学入試センター試験利用大学-332大学-

国立大学95大学（全大学・全学部）

[illegible]

公立大学57大学（全大学・全学部） ※は平成10年度新規利用大学

[illegible]

私立大学180大学394学部 ※は平成10年度新規利用大学・学部

[illegible][illegible]

大学入試センター試験利用大学数の推移（国公立大学は原則として全大学が利用）

年度	国立大学	公立大学	私立大学（利用定員）		計
2	95大学	37大学	16大学	19学部（約 1,700名）	148大学
3	95大学	39大学	24大学	24学部（約 2,200名）	155大学
4	95大学	39大学	21大学	46学部（約 3,400名）	166大学
5	95大学	41大学	56大学	85学部（約 4,800名）	192大学
6	95大学	46大学	73大学	125学部（約 6,000名）	214大学
7	95大学	48大学	104大学	189学部（約 8,400名）	247大学
8	95大学	52大学	122大学	232学部（約10,500名）	269大学
9	95大学	53大学	152大学	321学部（約13,600名）	300大学
10	95大学	57大学	180大学	394学部（約15,400名）	332大学

平成10年度の出題教科・科目

- 国公立、すべての大学が利用できる学力試験です。
- 高等学校教育にそって、良質な試験問題を用意します。
- 出題科目は、各大学が利用しやすいよう工夫されています。
- 受験者は大学があらかじめ指定した教科・科目を受験することとなります。

期 日	教科・科目	時間・配点	出題方法等	科目選択の方法等
平成10年 1月17日 (土)	外国語 「英語」 「ドイツ語」 「フランス語」 「中国語」	10:00～ 11:20 (200点)	「英語」は、「英語I」に加えて「オーラル・コミュニケーションA」、「オーラル・コミュニケーションB」及び「オーラル・コミュニケーションC」に共通する事項を出題範囲とする。	左の4科目のうちから1科目を選択し、解答する。 ただし、科目選択に当たり、「ドイツ語」、「フランス語」又は「中国語」の問題冊子の配付を希望する場合は、大学入試センター試験の出願時に申し出ること。
	地理歴史 「世界史A」 「世界史B」 「日本史A」 「日本史B」 「地理A」 「地理B」	12:50～ 13:50 (100点)		左の6科目のうちから1科目を選択し、解答する。
	数学① 「数学I」 「数学I・数学A」	14:40～ 15:40 (100点)	「数学I・数学A」は、「数学I」と「数学A」を総合した出題範囲とする。ただし、次に記す「数学A」の4項目の内容のうち、「数と式」を含む2項目を学習した者に対応した出題とし、問題を選択解答させる。 〔数と式、平面幾何、数列、計算と〕 コンピュータ	左の2科目のうちから1科目を選択し、解答する。
平成10年 1月18日 (日)	数学② 「数学II」 「数学II・数学B」 「工業数理」 「簿記」 「情報関係基礎」	16:30～ 17:30 (100点)	「数学II・数学B」は、「数学II」と「数学B」を総合した出題範囲とする。ただし、次に記す「数学B」の4項目の内容のうち、2項目を学習した者に対応した出題とし、問題を選択解答させる。 〔ベクトル、複素数と複素数平面、確率分布、算法とコンピュータ〕 「情報関係基礎」は、職業教育を主とする家庭、農業、工業、商業、水産、看護の各科及び総合学科において開設されている情報に関する科目に共通する内容を出題範囲とする。	左の5科目のうちから1科目を選択し、解答する。 ただし、科目選択に当たり、「工業数理」、「簿記」又は「情報関係基礎」の問題冊子の配付を希望する場合は、大学入試センター試験の出願時に申し出ること。
	国語 「国語I」 「国語I・国語II」	10:00～ 11:20 (200点)	「国語I」の範囲及び「国語I」と「国語II」を総合した範囲の近代以降の文章、古典（古文、漢文）を出題する。	左の2科目のうちから1科目を選択し、解答する。
	理科① 「総合理科」 「物理IA」 「物理IB」 「生物IA」 「生物IB」	12:50～ 13:50 (100点)		左の5科目のうちから1科目を選択し、解答する。
	理科② 「化学IA」 「化学IB」 「地学IA」 「地学IB」	14:40～ 15:40 (100点)		左の4科目のうちから1科目を選択し、解答する。
公民	「現代社会」 「倫理」 「政治・経済」	16:30～ 17:30 (100点)		左の3科目のうちから1科目を選択し、解答する。

※「国語」は「近代以降の文章（2問100点）、古典〈古文（1問50点）、漢文（1問50点）〉」で構成されており、大学によっては分野別に利用を指定することができるようになっています。

旧教育課程履修者に対する経過措置

- 平成10年度大学入試センター試験のすべての受験者は、新教育課程の教科・科目の内容による試験問題を受験するのが原則ですが、旧教育課程履修者に対しては次の経過措置を講じますので、旧教育課程履修者は、この経過措置によっても受験できます。
経過措置を講ずる平成10年度の大学入試センター試験においては、新教育課程と旧教育課程の共通の範囲から出題することを基本としますが、この共通の範囲からの出題では大学入試センター試験の目的が十分達成できないおそれがある出題科目については、次のような経過措置を講ずることとします。

(1) 科目単位での経過措置

旧教育課程の「数学I」、「数学II」及び「理科I」は、これらを履修した者のために「旧数学I」、「旧数学II」及び「理科I」として、従前と同様の試験時間、配点により出題します。

なお、新教育課程履修者は、これらの旧教育課程により出題する科目は選択解答できません。

(2) 対応問題での経過措置

「倫理」については、新「倫理」固有の範囲から出題する問題に対しては、旧「倫理」の範囲から出題します。

なお、新教育課程履修者は、この旧「倫理」の範囲から出題する問題は選択解答できません。

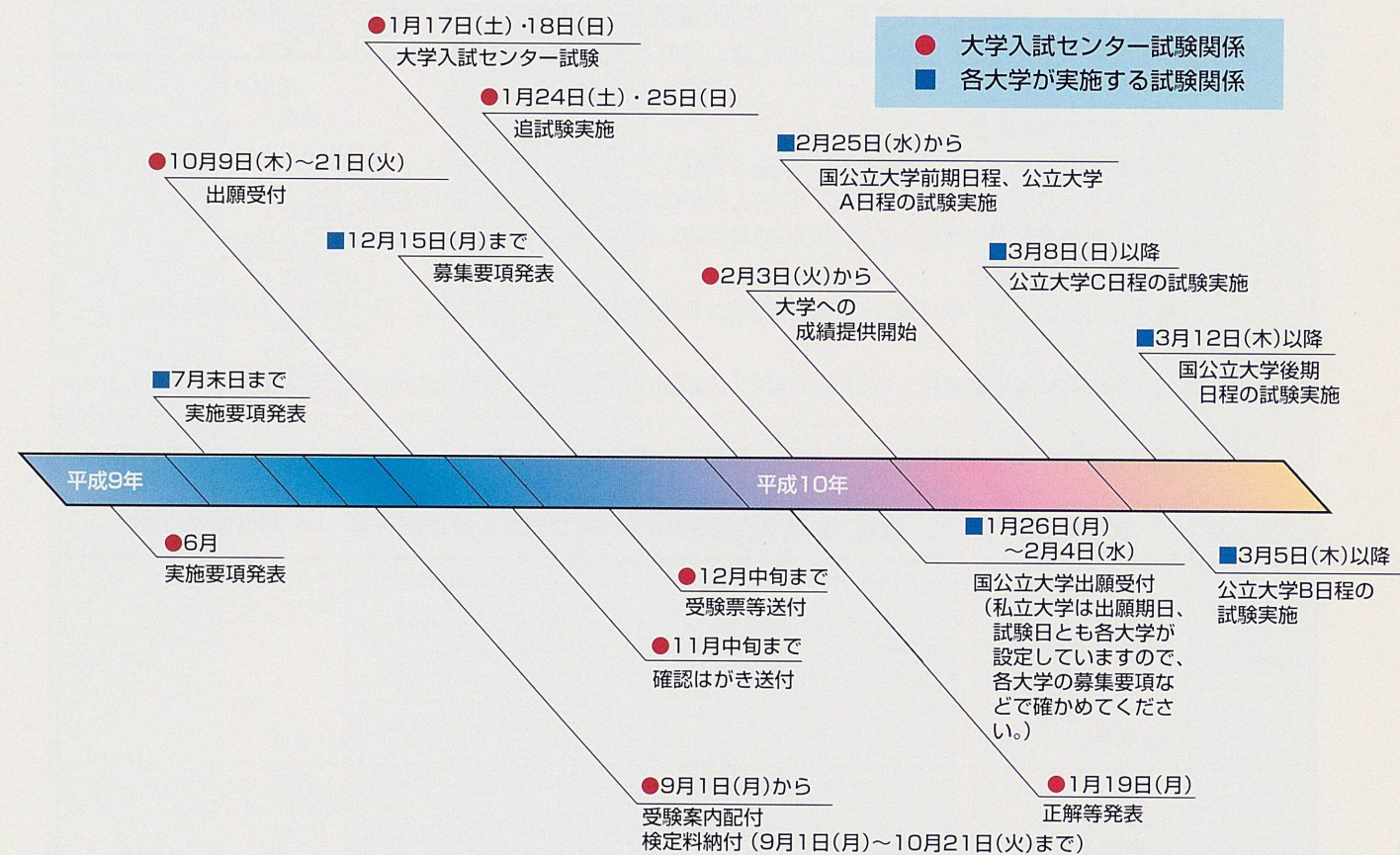
2 旧教育課程履修者に対する措置を講じる教科・科目は、下表のとおりです。

グループ	出 題 科 目	出題方法及び旧教育課程履修者に対する措置等	科目選択の方法
数学①	「数学I」 「数学I・数学A」	「数学I・数学A」は、「数学I」と「数学A」を総合した出題範囲とする。 ただし、次に記す「数学A」の4項目の内容のうち、「数と式」を含む2項目を学習した者に対応した出題とし、問題を選択解答させる。 〔数と式、平面幾何、数列、計算とコンピュータ〕	左の3科目のうちから1科目を選択し、解答する。
	「旧数学I」	旧教育課程履修者のために旧「数学I」を出題し選択解答できるようにする。	
数学②	「数学II」 「数学II・数学B」 「工業数理」 「簿記」 「情報関係基礎」	「数学II・数学B」は、「数学II」と「数学B」を総合した出題範囲とする。 ただし、次に記す「数学B」の4項目の内容のうち、2項目を学習した者に対応した出題とし、問題を選択解答させる。 〔ベクトル、複素数と複素数平面、確率分布、算法とコンピュータ〕 「情報関係基礎」は、職業教育を主とする家庭、農業、工業、商業、水産、看護の各科及び総合学科において開設されている情報に関する科目に共通する内容を出題範囲とする。	左の6科目のうちから1科目を選択し、解答する。
	「旧数学II」	旧教育課程履修者のために旧「数学II」を出題し選択解答できるようにする。 旧「数学II」の電子計算機と流れ図は、出題範囲から除く。 旧「数学II」は、旧「数学II」を履修した者並びに旧「代数・幾何」、旧「基礎解析」及び旧「確率・統計」のうち、2科目以上を履修した者のいずれにも対応した出題とする。	
理科①	「総合理科」 「物理IA」 「物理IB」 「生物IA」 「生物IB」		左の6科目のうちから1科目を選択し、解答する。
	「理科I」	旧教育課程履修者のために旧「理科I」を出題し選択解答できるようにする。	
公民	「現代社会」 「政治・経済」		左の3科目のうちから1科目を選択し、解答する。
	「倫理」	新「倫理」と旧「倫理」の共通の範囲から出題するほか、新「倫理」固有の範囲から出題する。新「倫理」固有の範囲から出題する問題に対しては、旧「倫理」の範囲から出題する問題を用意し、旧教育課程履修者はいずれかを選択解答できるようにする。	

注：「新教育課程履修者」とは、高等学校（盲学校、聾学校及び養護学校の高等部を含む。）に平成6年4月以降に入学し、平成10年3月までに卒業又は、卒業見込みの者です。「旧教育課程履修者」とは、上記以外の者です。

SCHEDULE

平成10年度入学者選抜実施日程 大学入試センター試験利用大学



HEART ハート SYSTEM システム 大学進学案内情報サービス

大学入試センターが、NTTのビデオテックス通信網(キャプテン)を通じて、大学の進学案内に関する情報の提供を行っているものです。この進学案内は、志望する学部・学科等が全国のどの大学に設置されているかなどの情報を即時に知ることができるシステムです。その内容は「志望大学の選択」、「大学案内」、「ハート速報」、「入試案内」、「編入学情報」の5つのメニューで構成されています。利用に際しては、パソコン、通信モデム、キャプテン専用ソフト(大学入試センターから無償ソフトを配付しています。)、NTTとの回線契約が必要です。



「ハートシステム」の内容については
大学入試センター管理部進学情報課

☎03-3468-3311 (代)

ビデオテックス回線契約については
NTT画像通信事業本部

☎0120-414932 フリーダイヤル

お答えします、大学入試センター試験

Q & A

Q 大学入試センター試験を利用する大学のメリットは何ですか？

A 大学入試センター試験は、国公立大学が自由に利用でき、各大学の創意工夫に基づいて多様に活用できる試験です。各大学にとって、独自の学風や建学の精神に基づいた特色ある選抜が可能になり、大学教育を受けるにふさわしいさまざまなタイプの優秀な学生を見出すことができ、ひいては大学の活性化が図れるものと考えます。また、基礎的学力の判定をこの試験によることとすれば、志願者の能力や適性を多面的に判定する独自の試験を実施するゆとりが生まれ、志願者ひとりひとりの個性を重視した、より丁寧な入試を行うことが期待できます。

Q 大学入試センター試験の出願に当たって、特に注意すべき点はどんなことですか？

A 大学入試センター試験は、すべての国公立大学と私立大学の約半数近い大学が利用する試験です。特に、平成9年度からの新しい学習指導要領に基づく大学入試センター試験では出題教科・科目数も大幅に増え、利用する大学での教科・科目数の指定も複雑・多岐にわたっています。したがって、自分が志望する大学・学部等が、大学入試センター試験を利用するか否か、また利用する場合にはどのように利用するのか、募集要項等で十分確認し、併願校との関係も考えながら、受験教科・科目を決める必要があります。

なお、出願期間が試験実施日よりかなり早い時期(今年度は平成9年10月9日(木)から21日(火)まで)ですので、期間内に確実に出願手続を済ませるようにしてください。また、身体に障害を有する志願者は、受験に当たって特別の措置が受けられますので、出願の際に、特別措置の内容等を「受験案内(別冊)」により、十分確認して所要の手続をとる必要があります。

Q 各受験者の成績はどのように扱われるのですか？

A 答えは、大学入試センターで一括して採点します。その成績は、受験者が出願した大学からの請求に基づき、その大学に対してのみ提供します。受験者に対しては、正解と配点は試験終了直後に報道機関を通じて発表します。

Q 大学入試センター試験の詳しい資料や情報はどこで入手できますか？

A 平成10年度受験案内の配付

- ・配付時期 平成9年9月1日(月)から
- ・配付場所 大学入試センター試験利用大学
- 身体に障害を有する志願者が受験特別措置を希望する場合に必要な平成10年度受験案内(別冊)は大学入試センターに直接請求してください。
- ・配付時期 平成9年9月1日(月)から
- ・請求方法 官製はがき(表面に「受験案内(別冊)請求」と朱書)又は電話

●大学入試センター試験 志願者問合せ先

大学入試センター事業第一課

☎03-3465-8600

月曜～金曜 9時30分～17時(祝日を除く)

※電話による問合せは、原則として志願者本人が行ってください。

(文部省) 大学入試センターは、国立学校設置法に基づき、大学入試センター試験を実施する国の機関です。教材の訪問販売等は、一切行っておりません。



文部省
大学入試センター

〒153 東京都目黒区駒場2丁目19番23号

☎ 03-3468-3311(代)

1997年（平成9年）5月発行